

参考資料

平成16年度に実施した社会実験の事例

歴史的な補助幹線道路の歩車共存化に向けた交通社会実験（石川県野々市町）

地域の問題・課題

- 本町通り（旧北国街道）は、道路幅員が狭く歩行者空間が乏しいにも関わらず交通量が多く、走行速度も速いため、歩行者が危険を感じている。将来的な拡幅計画があるが、重要文化財や歴史ある大木などが多数存在し、短期的な道路拡幅が困難な状況にある。
- そのため、通過交通や速度の抑制等を行いながら、歩行者の安全確保を重視した歩車共存道路化を図ることが必要である。

実験の目的

- 歴史的な補助幹線道路において、通過交通の低減や歩行回遊性の向上を図るため、イメージ歩道、狭さく、ハンプ等の設置を実施し、その有効性や課題について検証を行う。

実験の内容

- (1) イメージ歩道設置（路側帯拡幅）による歩行空間の確保
 - 野々市本町交差点から本町2丁目南交差点間、425mの区間において、路側の白線を車道側に約20cmずらし引きなおし、車道部幅員は5.0~5.5m（2.50~2.75m×2車線）、歩道幅員1.0mを確保
- (2) シケインまたは狭さくの設置
 - 車道幅員を4.0mに絞り込むシケインを、クッションドラム、プランター、弾性車止めを用い区間内2箇所に設置し、歩行空間と一体となった整備を行った。
- (3) 立体ハンプ及びイメージハンプの設置
 - 路線流入口に、横断歩道と一体となったイメージハンプを2箇所設置
 - 路線内に高さ10cmの立体ハンプで幅員が異なる3種類（全幅台形ハンプ型、片側乗り上げ型、車道台形ハンプ型）を設置
- (4) 擬似立体減速路面シートの設置
 - シケインに幅員減少の注意を促すための路面シートを設置
 - 立体ハンプの手前に走行速度減速の注意を促すための路面シートを設置
- (5) 路線バスの迂回
 - シケイン設置により大型路線バスのすれ違いに支障が生じるため、下りバスのみ迂回させた。なお、小型のコミュニティバスについては、既存ルートを通行

実験期間

平成16年10月21日（木）～11月20日（土）

検討・実施体制

- 野々市町、地区住民、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所、警察、民間事業者で「本町通りくらしのみちづくり連絡協議会」を設置

位置図



概要図



野々市町での実験の様子



流入口の予告看板



実験開始区間の横断歩道一体型イメージランプ



単路部のイメージランプと弓形ランプ



異なるデザインの物理ランプ



古民家前の仮設狭さく



イメージランプ部の路線バス通行